

長野県高等学校改革プラン推進委員(第一推進委員会)

中村正行委員長様

平成17年7月25日

長野南高等学校同窓会長 西澤 章

推進委員会ご苦勞様でございます。7/25の委員会を傍聴させていただきました。わたくし自分の高校を主張しているだけでは現状打破できないと思い別紙のような資料を作成させていただきました。

県教委として“教育の質を落とさずに経費を削減する”ということが大前提であるならば、現在、長野市北部には公立高等学校が集中して5校ございます。それぞれの学校の距離を見ると約1670m～3150mしか離れておりません。実際メジャーで測ったわけではありませんから正確ではありませんが“当たらずとも遠からず”です。このネットワークは広域でもなんでもなくご近所的な距離といえるでしょう。各隣接校が教員を共有し行き来してもらった場合上記の目的は十分達成されるはずですが、難点があるとすれば、あまり行ったり来たりで、本命高校に対する帰属意識が薄くなるということでしょうか。

実際、実行の段になるとどのような弊害があるのかわかりませんが、今現在も教員の2校兼任はよくおこなわれていることですし、自動車やバイクでの移動であれば多くみても5～10分で隣校に到着できます。

このことで統廃合をしなくて済み、クラス調整程度で済むのなら痛みわけで十分対応ができると思います。素人考えですが一考していただければ幸いです。

- 長野商業高等学校—長野西高等学校 約1670m
- 長野西高等学校—長野高等学校 約2330m
- 長野高等学校—長野吉田高等学校 約1830m
- 長野吉田高等学校—臯月高等学校 約3150m
- トータル距離約9キロ 5校の納まる直径約6キロ